

(2)その他,特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果,世界的位置付け(ISI citation など)など。* ISI データのない場合は,可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
特筆すべき教育活動	<p>1.該当無し</p> <p>ただし,多元研教員は,本学の関連する4研究科(工,理,生命科学,環境科学)の協力講座教員として本学大学院生などの教育に関与・協力しており,教育活動はそれぞれの研究科での成果として捉えている。</p>	
特筆すべき研究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・多元研の多くの教員は,国際的学術誌編集や国際会議でのチェアマンなどに選任されている。したがって,そこでの研究は,国際的研究者コミュニティーにおいて認知されていると判断できる。これは,多元研では,教員は常に向上心を持って研究教育活動を行っている証であり,その高レベルな研究の維持と発展を目指した取り組みを行っており,平成18年度に登録された研究業績551報の内,Nature, Science, Angewandte Chemie など,インパクトファクター5以上の雑誌に掲載された論文数は36報であった。 ・ハードとソフトな研究環境を整備するための方策として,外部競争的研究資金獲得を目指し,独創的,先進的,先導的,社会に役立つ高いレベルの研究を推進することを目標としており,そのために異分野との融合を含めて他研究機関などとの個別・共同研究を積極的に進めているが,平成18年度はNEDOやJSTなどの競争的資金獲得によるプロジェクトが23件採択された。また,企業との共同研究件数は53件であった。 ・平成17年度より多元研と阪大産研との間に,「物質基盤センター(略称)」が設置され,2研究所間共同研究が進められている。また,このような研究者コミュニティーを拡大し,物質科学の研究を発展させる取り組みを進めている。 ・多元研は,阪大産研に加えて,東工大資源研と北大電子研の4附置研究所間アライアンス連携事業の平成19年度からの文部科学省による承認に向け,4研究所とともに準備に協力した。 ・寄附研究部門を設置し,産学連携による社会貢献を推進しており,平成18年度は,新たに1件設置,1件は期間満了で終了し,現時点で,3件設置されている。 ・平成15年度から開始された「物質・材料機構」との人事交流は,2期目の3年目を迎え,継続中であり,平成18年度は連携ラボ運営会議を2度,公開シンポジウムを2回行った。 ・分子研が中心となり,全国国立大学法人の化学系研究所・研究科などから構成される“化学系研究設備有効活用ネットワーク”の形成準備を行い,全国を12地区に分割し,各地区での研究設備の活用体制を構築しているが,多元研は,東北地域での拠点として,地区協議会を開催し,仕組みの理解に務めた。 	
特筆すべき社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の教員が学協会の委員を行っており,その延べ総数は216件で,その中でも学会会長,副会長,監事,理事,評議員等の要職に付いている件数は70件であった。 ・日本学術会議会員連携会員4名,内閣府等の省庁委員会委員10件,地方公共団体各種委員会委員5件等の役職数の合計114件であり,わが国の学術分野の施策に対して一定の役割を担った。 ・宮城県教育委員会主催の「みやぎ県民大学開放講座」「エネルギーと環境」を8月~9月に実施した。また,仙台市科学館での化学展,高校への出前授業,多元研での夏休み大学探検なども行った。 	

